

今年こそは熱中症の牛ゼロ！

● 今年の夏は暑い！？

気象庁の発表によると、全国的には例年より暑くなるらしいですが、北海道・東北地方は例年通りもしくは暑くなるということです。また、8月から9月にかけてラニーニャが発生した場合、暑さがさらに長引く可能性があります。毎年牛群の何頭かは熱中症になってしまいう牛がいる農場は、今年の夏は今まで以上に注意する必要があります！

● 暑熱によるストレスは間接的または直接的にさまざまな影響を及ぼします！

- ◇ カウコンフォート（牛の安楽性）の悪化
- ◇ 乾物摂取量の低下
- ◇ 反芻時間の減少
- ◇ 乳量の低下
- ◇ 乳質の悪化
- ◇ 増体の抑制
- ◇ 繁殖成績の低下
- ◇ ルーメンの健康状態の悪化、など



● 注意するのは搾乳牛だけではない！

見落としがちなのが育成牛や乾乳牛、そして子牛です。

成牛よりも子牛は適温域が狭く、暑熱ストレスを受けやすい状態にあります。

● 対策がカギ！

- ファンを設置している農場は、そのファンがしっかりと回っているか、牛の体に風があたっているかなど今一度チェックする必要があります。
- 自然換気の農場は開口部を全開に。強制換気（トンネル換気）の農場はファンを回して入気口以外の窓や扉は締切り、密閉構造を作ることが求められます。
- 子牛のハッチは熱がこもりやすく、風通しの良い場所への設置が重要です。
- 哺乳子牛に対してもスターターだけでなく、水を常設する必要があります。
- 鈹塩や重曹などのミネラルの設置（フリーストールでは自由に牛がなめることが出来ますが、つなぎ牛舎では全頭に当たるような配慮が）、など

● 熱中症の牛が出てしまったら？

早急な処置が重要です！獣医師が来る前にホースやバケツで水をかけてあげてください。水を飲ませることはもちろんですが、風通しの良い日陰に移動させることも必要です。立てないほどの重症例では、直腸を傷つけないように肛門から直接ホースを挿入し、水で冷やしてやるのも効果があります。

人間もしっかり水分補給をして、暑熱ストレスを緩和していかないとですね

茅野 大志